

税制調査会（第3回総会）終了後の記者会見議事録

日 時：令和6年6月4日（火）16時56分～

場 所：財務省第3特別会議室

○記者

よろしくをお願いします。

翁会長から冒頭、何かございますか。

○翁会長

どうぞよろしくお願ひいたします。

本日は、前回の総会で比較的多く挙げられた御意見などを踏まえまして、税制におけるEBPMの取組、活力ある長寿社会に向けたライフコースに中立な税制の構築、経済社会のデジタル化への対応と納税環境整備などについて事務局から説明を受けた後、委員間で意見交換を行いました。各委員からの御意見については、皆様もお聞きのとおりかと思ひます。

そして、会議の最後に私から、専門家会合の設置につきまして総会にお諮りしまして、委員の皆様から御了承をいただきました。また、その後、3つの専門家会合の座長を指名させていただきました。各専門家会合の今後の具体的なスケジュールを含めた進め方や審議内容については、各座長に一任することとしております。

総会や専門家会合の開催日時などにつきましては決まり次第、改めて事務局からプレスの皆様にも御連絡させていただきます。

私からは以上です。

○記者

幹事社から1問、お伺ひします。今日の総会で、3つの専門家会合が決まりました。会の最後にもありましたが、それぞれの会合でどのような議論を期待するか、改めて教えてください。

○翁会長

先ほど発言しましたが、まず、税制のEBPMに関する専門家会合については、税制全般のEBPM、客観的なデータの整理や効果検証の手法など、その有効性の検証に関する議論を専門的な見地から行っていくということを目的としております。

それから、活力ある長寿社会に向けたライフコースに中立な税制に関する専門家会合に関しましては、特にこの夏と言われております年金財政検証がございますので、特に退職金や年金に係る課税について速やかな検討が必要であることや、退職所得課税、公的・私的年金などの様々な高い専門性を伴う議論が必要であることから、長寿関連の税制として専門家会合を設置して総会のための議論の素材を整理していただくことが目的でございます。

本会議でも申し上げましたが、本件はライフコースを通じた働き方や長年にわたり

形成された期待を伴う高齢期の人生設計に関わる問題でありますので、制度見直しの影響に十分留意して議論していくということを念頭に置いております。

それから、もう一つは、経済社会のデジタル化への対応と納税環境整備に関する専門家会合も今回スタートすることになっております。こちらは従来から税務手続や適正・公平な課税・徴収のあり方については御議論いただく専門家会合があったのですが、今回、特に私たちの生活、経済活動でもデジタル・トランスフォーメーションが進んでおりますので、こういった経済社会のデジタル化を踏まえて税務・税制の在り方について併せて専門的な観点から幅広く御議論をしていただきたいと思いますと考えております。

以上でございます。

○記者

専門家会合の中身について、EBPMについての専門家会合は、今日の議論では租税特別措置、特に法人税の租税特別措置について議論が集中していたと思いますが、法人税の租税特別措置の効果検証を含めて全般的に取り扱うという認識でいいのでしょうか。

○翁会長

はい。そのとおりでございまして、税制全般についてここでは議論していただくということを考えております。具体的なテーマは座長がメンバーの方々の御意見も踏まえながら決めていくことになると考えています。その上で、租税特別措置全体として客観的なデータに基づく検証の取組を進めていくことは、税制のEBPMに関する専門家会合で取り扱うにふさわしい大変重要なテーマであると思っております。

○記者

もう一つの活力ある長寿社会に向けたライフコースに中立な税制に関する専門家会合ですが、先ほど御紹介があったように夏の年金の財政検証もあるのでその速やかな検討が必要ということですが、これは夏の検証をにらんで、その時期には何らかのこちらからのサジェスションを出していくようなスパンで何かお考えになるということでしょうか。

○翁会長

夏頃に予定されていると公的年金財政検証については聞いておりますので、それを受けて速やかに検討が求められるということだと思っております。

○記者

この3つの会合はそれぞれ並行して3本走っていくようなイメージで、それぞれのタイミングで総会に議論がまとまったものが上がってくるというようなイメージをしていただければいいのでしょうか。

○翁会長

はい。今のところ、そういうイメージで3つパラレルに走り、都度、総会に御報告をいただく。総会は総会での議論もあるかもしれませんが、まとまったところで適宜御報告していただき、総会でもしっかり議論するというのを考えております。

○記者

活力ある長寿社会に向けたライフコースに中立な税制の構築についてです。今日の委員の方からの指摘の中でも退職金のところの課税についての指摘が幾つかあったと思いますが、率直に意見を伺って翁会長としてはどのように受け止めたところがあったのかということについて何かありましたら教えてください。

○翁会長

会議のところでも申し上げたのですが、財政が厳しいから財源確保など、そういう観点ではなく、純粹に働き方の中立性とか活力・公正といった観点から経済社会の変化に対応できるように検討していくことが大変重要だと思っております。

先ほども申し上げましたが、やはり退職金税制は人々の期待や高齢期の人生設計にも非常に関わる問題でございますので、制度の見直しの影響にも十分留意して議論していくことが大事だということをもう一回申し上げたいと思っておりますが、そういう意味で働き方の中立性、公正・活力といった点で考えていく必要があると思っております。

○記者

ほかはよろしいですか。

ないようですので終わります。ありがとうございました。

○翁会長

どうもありがとうございました。引き続きよろしく申し上げます。

[閉会]